

ありと「おろぎ」 インドネシア

ある日の「こと」、ありと「おろぎ」が、つれだつて道を歩いていました。小川まで来ると、「」おろぎがいいました。

「おれはこの川、とび」そられるよ。ありくん、できるかい」
「おろぎは、

「ぼくだつてできるや」と答えました。

「おろぎはすぐにぴょんととびました。うまくききました。ありもぴょんととびました。
あるいは、足をすべらせて水の中に落つこちでしました。

「助けてくれ、」おろぎくん。綱つなを投げておくれ」と、ありはさけびました。「おろぎは走つていて綱をさがしました。すると、むこうから、ぶたがやってきました。」おろぎは、「ぶたくん、たのむ、助けてくれ。あんたのかたい毛を一本くられないか。それを綱にして、川に落つこちたありを助けるんだ」といいました。ぶたは、

「じやあ、ココヤシの実をひとつおくれよ。そしたらあんたに毛をやろう」といいました。
「おろぎは急いで走つていて、ココヤシの木を見つけました。

「ココヤシさん、たのむ、助けてくれ。あんたの実をひとつくれないか。そしたら、その実をぶたにやれるし、ぶたはかたい毛をくれる。その毛をおれは綱にして、川に落つこちたありを助けるんだ」

ココヤシの木はいいました。

「じやあ、わしの葉っぱにとまつているからすを追いはらつておくれ。重くてしかたがない。
そしたらあんたに実をやろう」

「おろぎは大きな声でいいました。

「おうい、からすやあい。たのむから、木からどいてくれないか。そしたらココヤシはおれに実をくれて、おれはその実をぶたにやつて、ぶたはかたい毛をくれる。その毛をおれは綱にして、川に落つこちたありを助けるんだ」
からすはなんていつたと思いますか。こういつたんですよ。

「ああ、どいてやるよ。ただし、たまごをひとつくれたらね」

「おろぎは走つていつてめんどりを見つけました。

「めんどりさん、たのむ、助けてくれ。あんたのたまごをひとつくれないか。そしたらそれをからすにやって、からすは木からどいてくれて、ココヤシはおれに実をくれて、おれはその実をぶたにやって、ぶたはかたい毛をくれる。その毛をおれは綱にして、川に落つこちたありを助けるんだ」

めんどりはいいました。

「じやあ、わたしに、お米とくわうもろこしを持つてきてちょうだい。そしたらあんたにたまごをあげるわ」

こおろぎは急いで食べ物蔵ぐらに走つていきました。

「くらさん、たのむ、助けてくれ。お米とくわうもろこしを少しくれないか。そしたらそれをめんどりにやって、めんどりはおれにたまごをくれて、おれはたまごをからすにやって、からすは木からどいてくれて、ココヤシはおれに実をくれて、おれはその実をぶたにやって、ぶたはかたい毛をくれる。その毛をおれは綱にして、川に落つこちたありを助けるんだ」

食べ物蔵はいいました。

「じやあ、わしの中に巣を作つてるねずみを追つぱらつておくれよ。そしたら、お米とくわうもろこしをやるよ」

こおろぎは食べ物蔵に入つていつていきました。

「ねずみさん、たのむ、ここから出ていつてくれないか。そしたら、蔵はおれにお米とくわうもろこしをくれて、おれはそれをめんどりにやって、めんどりはおれにたまごをくれて、おれはたまごをからすにやって、からすは木からどいてくれて、ココヤシはおれに実をくれて、おれはその実をぶたにやって、ぶたはかたい毛をくれる。その毛をおれは綱にして、川に落つこちたありを助けるんだ」

ねずみはいいました。

「じやあ、ミルクを持つてきてよ。そしたらここから出ていつてやるよ」

こおろぎは、雌牛めうしのところへ走つていきました。

「雌牛さん、たのむ、助けてくれ。あんたのミルクを少しくれないか。そしたらそれをねずみにやって、ねずみは食べ物蔵から出ていつて、食べ物蔵はおれにお米とくわうもろこしをくれて、おれはそれをめんどりにやって、めんどりはおれにたまごをくれて、おれはたまごをからすにやって、からすは木からどいてくれて、ココヤシはおれに実をくれて、おれはその毛をおれは綱にして、川に落つこちたありを助けるんだ」

実をぶたにやつて、ぶたはかたい毛をくれる。その毛をおれは綱にして、川に落つこちたあたりを助けるんだ」

雌牛はいいました。

「じゃあ、わたしに、アランアラン草をひとたば持つてきてちようだい。そしたら、しぶりたてのミルクをあげるわ」

「おろぎは牧場へ走つていつて、アランアラン草を刈りました。そしてそれをたばにして、雌牛のところへ持つていきました。すると、雌牛はしぶりたてのミルクをくれました。

「おろぎは、ミルクをねずみにやりました。

ねずみは、食べ物蔵から出でていきました。

食べ物蔵がお米とどうもろこしをくれたので、それをめんどりにやりました。

すると、めんどりがたまごをくれたので、それをからすにやりました。

からすはたまごを受けとると、木からとびたちました。

すると、ココヤシの木が実をくれたので、それをぶたにやりました。

ぶたは、かたい毛を一本、おろぎにくれました。

「おろぎは急いでそれをより合わせて綱にし、かたほうのはしをしつかりにぎって、もうかたほうのはしを川の中のありに向かつて投げました。あるいは、綱につかまって岸にたどり着きました。

「ありがとうございました。おろぎは、わらつて、

「どういたしました。友だちは、おたがいに助けあわなくちゃね」といいましたよさ。

おしまい

* アランアラン草 イネ科の草

出典『語りの森昔話集一 おんちよろちよろ』村上郁再話

資料『世界の民話㉗』 小澤俊夫／ぎょうせい